

鷹取山自然観察会会報

2019. 3. 10 NO. 23

鷹取山蝶類について — 2018年調査 —

2018年4月から11月までの8か月間に行った蝶類調査の結果を報告します。2014年6月に会員により月1度の蝶類調査を始めてから5年目になります。蝶は種ごとに違った食草をもち、気候など環境の違いによってもすみ分けをしています。このため、地域の環境を評価するために蝶はよい指標となっています。

2014年の調査結果は会報7号に、2015年の調査結果は会報11号に、2016年の調査結果は会報15号に、2017年の調査結果は会報19号に掲載されています。

三浦半島は三方を海に囲まれ黒潮の影響を受けるため暖地性の蝶が多く分布しています。横須賀市自然・人文博物館によれば三浦半島には84種が記録されています。このうち、普通にみられる健在種は34種、近年減少または絶滅に追いやられている減少種は27種、温暖化などで増加傾向にある増加種は7種、単発的に記録される偶産種は8種、外来種は8種となっています。(横須賀市博物館研究報告(自然科学)第60号より)

2018年の蝶類調査は、引き続き環境省「モニタリングサイト1000里地調査」に登録して行いました。調査結果は国の方にも報告することになります。

1. 調査方法

調査は環境省自然環境局及び日本自然保護協会における「モニタリングサイト1000里地調査マニュアル」に沿って、4月から毎月2回行いました。調査ルートは植物相調査のコースで行い、植生の違う6区間に分け調査しました(会報12号植物相調査ルート(図1と表1)を参照)。調査頻度は月2度、原則として第1及び第3金曜日に行い、調査ルートを歩きながら、目視で判別できる種は記録し、シジミチョウ科、シロチョウ科、タテハチョウ科など同定が難しい種については捕虫網で捕獲し、図鑑により確認し記録しました。

2. 調査結果

今回は、15回のチョウ類調査を行いました。調査日によっては気象条件などにより出現する数に違いがありました。2018年は41種が記録できました。

調査区間の結果から見てみると、A区間は鷹取山公園内で草地の他、クヌギ、コナラの落葉樹とシイなど照葉樹もある区間です。草地にはキタキチョウ、ヤマトシジミ、ツマグロヒョウモンなどが見られました。また、樹林内ではコムスジ、アカボシゴマダラ、モンキアゲハ、ヒメウラナミジャノメなどが観察されました。B区間は住宅地及び児童公園があり、アゲハの仲間やツマグロヒョウモンなどが見られました。C区間はシイ、カシなどの常緑樹の木々が多く、ここではヒカゲチョウの仲間やジャノメチョウの仲間が観察されました。D区間はコナラ、オオシマザクラなどの落葉樹が多い場所であり、アゲハの仲間、コムスジ、サトキマダラヒカゲ、ダイミョウセリなどが見られました。

E区間は杉林の林縁でありヒメウラナミジャノメなどジャノメチョウの仲間、ヒカゲチョウなどが多く見られました。F区間は畑地もある場所でモンシロチョウ、ヤマトシジミなどが観察できました。

2018年には、2014年以来となるアサギマダラ



が記録できました。一方、2018年に記録できなかった蝶は、ウラナミアカシジミ、ミズイロオ

ナガシジミ、クロコノマチョウ、ツマキチョウ、コチャバネセセリ、イチモンジチョウ、ヒオド

シチョウ、ヒメアカタテハの 8 種でした。このため、4 年間の合計では 49 種となります。

鷹取山の年別記録数

(調査頻度 2014～2015 年：月 1 回 2016～2018 年：月 2 回)

	科・亜科	種名	2014 年	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年
1	アゲハチョウ科	アオスジアゲハ	▼	○	◎	●	◎
2		オナガアゲハ	△	△	×	△	△
3		カラスアゲハ	△	▼	▼	●	◎
4		キアゲハ	△	×	△	△	△
5		クロアゲハ	▼	△	●	▼	○
6		ジャコウアゲハ	▼	○	○	●	◎
7		ナガサキアゲハ	△	×	△	▼	▼
8		ナミアゲハ	▼	▼	○	○	○
9		モンキアゲハ	▼	○	○	●	◎
10	シジミチョウ科	アカシジミ	△	×	△	△	△
11		ウラギンシジミ	△	▼	○	○	◎
12		ウラナミアカシジミ	×	△	×	△	×
13		オオミドリシジミ	×	△	△	△	△
14		ツバメシジミ	△	○	○	○	◎
15		ベニシジミ	△	○	◎	◎	◎
16		ミズイロオナガシジミ	△	×	×	×	×
17		ムラサキシジミ	×	△	▼	▼	○
18		ヤマトシジミ	◎	◎	●	●	●
19		ルリシジミ	○	▼	○	○	●
20		ウラナミシジミ	×	×	◎	◎	◎
21	ジャノメチョウ亜科	コジャノメ	△	◎	○	○	○
22		サトキマダラヒカゲ	▼	○	◎	◎	○
23		ジャノメチョウ	×	△	▼	▼	△
24		ヒカゲチョウ	▼	▼	○	○	○
25		ヒメウラナミジャノメ	○	◎	●	●	●
26		ヒメジャノメ	△	▼	◎	◎	▼
27		クロコノマチョウ	×	×	△	△	×
28	シロチョウ科	キタキチョウ	○	○	◎	◎	○
29		スジグロシロチョウ	△	△	▼	▼	◎
30		モンキチョウ	△	△	○	○	○
31		モンシロチョウ	▼	▼	●	●	◎
32		ツマキチョウ	×	×	△	△	×
33	セセリチョウ科	イチモンジセセリ	△	○	○	○	●
34		ダイミョウセセリ	▼	▼	○	○	○
35		チャバネセセリ	×	△	○	▼	○
36		キマダラセセリ	×	×	▼	▼	△
37		コチャバネセセリ	×	×	×	△	×
38	タテハチョウ亜科	アカタテハ	△	△	▼	○	▼
39		アカボシゴマダラ	▼	△	○	◎	○
40		イチモンジチョウ	×	△	△	×	×
41		コムスジ	▼	▼	○	◎	○
42		ツマグロヒョウモン	○	○	●	●	●
43		ヒオドシチョウ	×	△	×	×	×
44		ルリタテハ	×	△	▼	▼	▼
45		ゴマダラチョウ	×	×	△	△	△
46		キタテハ	×	×	○	▼	○
47		ヒメアカタテハ	×	×	×	△	×
48	テングチョウ亜科	テングチョウ	△	×	△	▼	○
49	マダラチョウ亜科	アサギマダラ	△	×	×	×	△

凡例 ×：なし △：1～3 頭 ▼：4～10 頭 ○：11～30 頭 ◎：31～50 頭 ●：51 頭以上

なお、調査とは別の日時ですが、鷹取山でミズイロオナガシジミ、クロコノマチョウ、ツマキチョウ、ヒメアカタテハの 4 種の確認情報があり、また、これまで記録のなかったムラサキツバメについても確認情報があります。それを合わせると、2018 年に確認された蝶は 46 種とな

り、5 年間で確認された蝶は 50 種となります。横須賀市自然・人文博物館には、三浦半島で記録された蝶類の約 80% にのぼる 67 種の蝶の標本が収蔵されており、これまでの調査等により鷹取山で確認された蝶 50 種については、標本が揃っています。

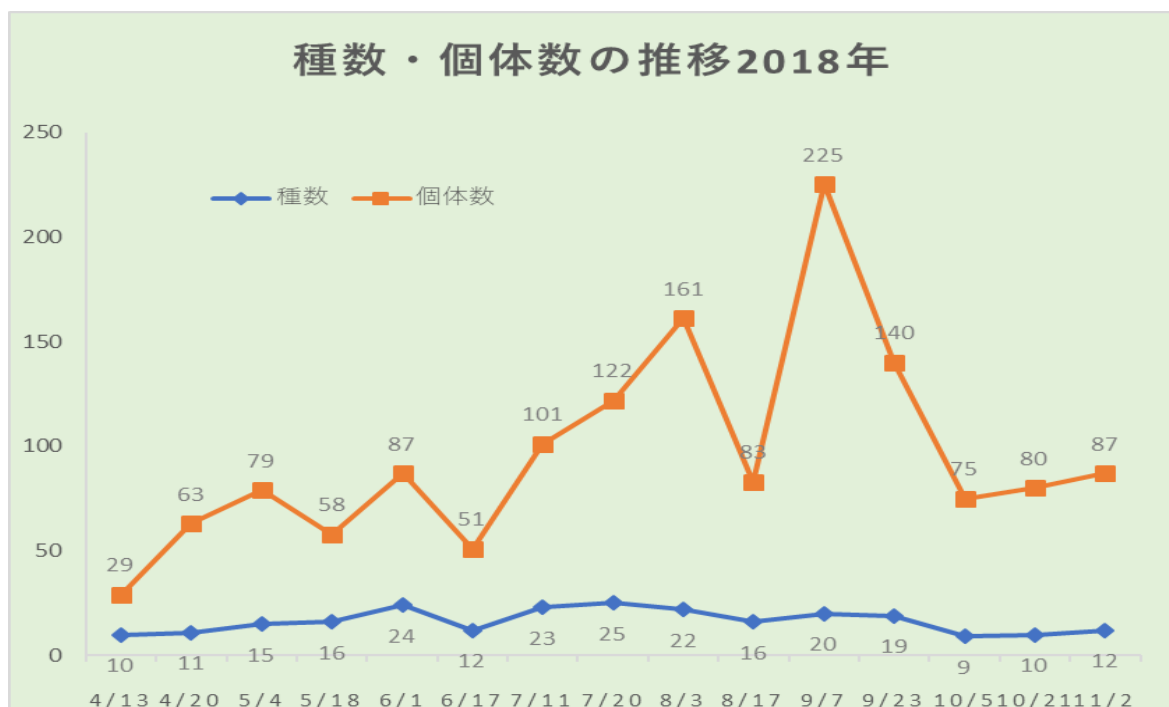
3. その他

蝶類調査では、絶滅していく種やこの地域で新たに見つかる種を観察することもあるかもしれませんが、前述の博物館報告書による減少種のうち、鷹取山自然観察会で 5 年間に記録されたものは、キアゲハ、ミズイロオナガシジミ、オオミドリシジミ、イチモンジチョウ、ジャノメチョウ、コチャバネセセリ、キマダラセセリ、

ヒオドシチョウの 8 種になります。調査することは楽しみでもあり、調査を継続していくことによって、鷹取山周辺の蝶の生息状況がはっきりしてくると思います。

2018 年調査に参加した人（鷹取山自然観察会）

本多久男、中村紀雄、高橋和子、原秀子、島村健二、金子龍次、郡司久、伊沢昭司、三科清高（順不同、敬称略）



柵づくりと看板の掲示

鷹取山の植物相の保全のための柵づくりをしたので報告します。柵づくりと掲示板、植物名の掲示などを行いました。会報 16 号で「自然観察の里山づくりのための鷹取山公園等の利用について」報告したように、当会では、鷹取山公園等の貴重な植物相の保護を目的に柵づくりと掲示板立てを行っています。



鷹取山公園の岩場にはケイワタバコの群落をはじめヤマユリ、センボンヤリなど貴重な植物相が多くみられます。これらの貴重な草花を保護するため、柵とロープにより管理区域としています。

1 月 25 日金曜日に会員有志で 10 時から 2 時間ほど作業を行いました。また、シソ科クルマバナの生える場所では、去年はクズの繁茂により、花が見られませ

んでした。このため、この場所の草刈りを行いました。管理区域では「守ろう私たちの自然、ここは植物群を保護しています。野草、樹木の刈込は行わないようお願いいたします。鷹取山自然観察会、横須賀市公園管理課」の看板を掲示しました。

今後、更に保全区域を広げ、貴重な植物相の保全をしていきたいと考えています。

植物相の保護は、様々な意見があると思います。会員の方でアイデアなどありましたら、ぜひ提案をお願いします。

モニ 1000 里地調査について（注意事項）

モニタリングサイト 1000 里地調査（以下モニ 1000 という）は、日本の様々な生態系の動態を 100 年の長期にわたりモニタリングすることでその変化をいち早く捉え、生態系及び生物多様性の保全施策につなげることを目的とした環境省の事業です。現在、調査は環境省と日本自然保護協会（以下 NACS-J）が全国約 190 ヶ所の一般サイトで、市民を主体とした調査を行っております。調査項目は、植物相、鳥類、水環境、中・大型ほ乳類、カヤネズミ、カエル類、蝶類、ホタル類、人為的インパクト（相関植生図）の 9 つの項目で、現在は第 4 期調査として（2018～2022 年度）で 5 年に 1 度サイトを更新します。

鷹取山自然観察会では、植物相、蝶類、鳥類の 3 項目の調査を行っています。調査に参加される方は次の注意事項を守り、楽しく調査していただくようお願いいたします。

注意事項

1. 調査に当たっては、植物相、蝶類、鳥類の各調査マニュアルを必ずご覧ください。調査マニュアルは NACS-J の web「モニタリング 1000 里地調査：マニュアル・調査票」を検索ください。
2. 調査の実施に当たっては、マナーを守り、公園管理者、民地地権者、ハイカーなど迷惑のかかることを行わない。また、調査では、モニ 1000 の腕章を必ず着けること。
3. 調査員は、ケガなどしないよう服装、靴などに留意するとともに体調に十分注意して行う。万一、調査中にケガなどした場合は、モニ 1000 傷害保険の手続きをとるので連絡担当者へ報告すること。参加される方はできるだけ傷害保険に加入すること。
4. 調査日は連絡担当者が指定した日に行う。

桜の花に蝶はとまるのか？

鷹取山から追浜方面へ 2 本の川が流れています。1 本は南町から東町方面へ、1 本は追浜小学校から追浜銀座商店街の裏を通り、天神橋手前で 2 本が合流し

- (1) 植物相調査 通年第 2 金曜日
- (2) 蝶類調査 4～11 月の間第 1、3 金曜日
- (3) 鳥類調査 12～3 月は原則第 1、3 金曜日、5 月 6 月の第 4 金曜日、6 月第 2 火曜日
雨天の場合は次の日曜日に順延、更に水曜日に順延する。

5. 調査データの公表は、環境省などへの許可は必要としないが、発表により貴重種、絶滅危惧種などが盗掘に合う恐れなどあるため慎重に行う。原則として行政機関等外部への公表は鷹取山自然観察会として行う。
6. 調査データは、年 2 回 NACS-J へ提供する。また、年 1 回調査員名簿を提出する。
前期 1～7 月分 8 月末提出
後期 8～12 月分 翌 1 月末提出
7. 調査員は貴重種などの保護のため、調査で知り得たラン科、ユリ科などの調査結果を、第三者に口外しないよう注意すること。また、植物保護のため自然観察会では貴重種などの紹介はしないよう注意すること。なお、調査などで知り得たデータは会員で共有する。
8. 各調査では、NACS-J との連絡係、同定係、記録係を各 2 名程度配置する。
植物相調査 （連絡係）本多（同定係）金子、小池（記録係）持ち回り
蝶類調査 （連絡係）本多（同定係）三科（記録係）持ち回り
鳥類調査 （連絡係）本多（同定係）本多（記録係）持ち回り
9. 調査は、鷹取山自然観察会会員で行う。ただし、会員の技術向上を図るため専門家を招待することもできる。
10. 2019. 2. 1 変更

ます。しかし、ほとんどが暗渠になっているので、合流前の川筋には気がつきません。川に沿って行政センター前を通り図書館に行くと、追浜中学校前の

川岸に菜の花が満開に咲いていました。だからではありませんが、図書館で『蝶々はなぜ菜の花にとまるのか』という本を借りました。インターネットの書き込みに「桜の花に蝶がとまる写真を撮った」というのを見つけたからです。

誰でも知っている童謡『ちょうちょ』の歌詞に「ちょうちょう ちょうちょう 菜の葉にとまれ 菜の葉にあいたら 桜にとまれ」とあります。蝶が菜の花を飛び回るのは、モンシロチョウが産卵するためです。現職の時、4年生の学習のため冬の初めにアブラナとキャベツの種を撒きました。横浜の真ん中の繁華街の中でもモンシロチョウが来てキャベツに卵を産みます。そして、サクラの葉柄には蜜腺があるので、モンシロチョウが来て蜜を吸うのだろう。そんな思いを確かめたくて、本を借りました。本には、菜の花に産卵のため飛び回る理由については詳細に記述がありますが、桜の花を飛び回るのは、歌詞が変えられてしまったからで、桜の葉に蝶が来るのかについての記述がありません。

もう一度インターネットの書き込みを見ましたが、写真はありません。さらに別の書き込みを調べていくと、意外な事実が判明しました。

その1、桜の花に来る可能性のある蝶は、スジグロシロチョウであること。菜の花に卵を産み付けるのはモンシロチョウであること。

その2、サクラの葉柄にある蜜腺は主にアリなどが来るので、蝶は来ないということ。

モンシロチョウとスジグロシロチョウは、同じシロチョウ科ですが食性や性質が違っているのです。モンシロチョウは野原のような明るく開放的な場所を好み、野菜である菜の花やキャベツに集まり卵を産み付けます。スジグロシロチョウは山間や山裾の多少暗いところを好み、アブラナ科の野草を食草にしています。昨年4月に行った蝶類調査では、4月13日

モンシロチョウ6 スジグロシロチョウ1 4月20日モンシロチョウ2 スジグロシロチョウ0 という結果でした。習性からするとスジグロシロチョウのほうが多そうなのに意外でした。サクラにとまる写真を撮った方は、すべてスジグロシロチョウで、桜にとまるのはスジグロシロチョウの方だといいますが、モンシロチョウも来るという方もいたので、どちらがとまるのかは判然としません。蜜腺については、蛾や蝶の幼虫が1枚の葉を食べつくし、次の葉へ移動するとき、葉柄を通ります。その時蜜腺に来ているアリがいれば幼虫は餌食になります。蜜腺は桜が自分の防御のためにあるのだということに納得し、蝶のための蜜腺ではないことがわかりました。

菜の花に来るのはモンシロチョウで、桜の花に来るのはスジグロシロチョウであるとしたら、歌の歌詞はおかしくなります。また、蝶は桜の花からは蜜を吸引しないのではないかという方もいました。結局問題ははっきりとは解決せず、さらに疑問は深まってしまいました。うららかな春の日の陽だまりに咲く菜の花や桜の花は平和の象徴であるようですが、生きとし生けるものにとっては、その中で激しい戦いを繰り広げられているのです。桜の花が咲いたら、1日ボーと突っ立て、どんな蝶が来るのかを観察しようと考えています。そして、サクラにとまる蝶を撮ってみたいものです。(市川 實)



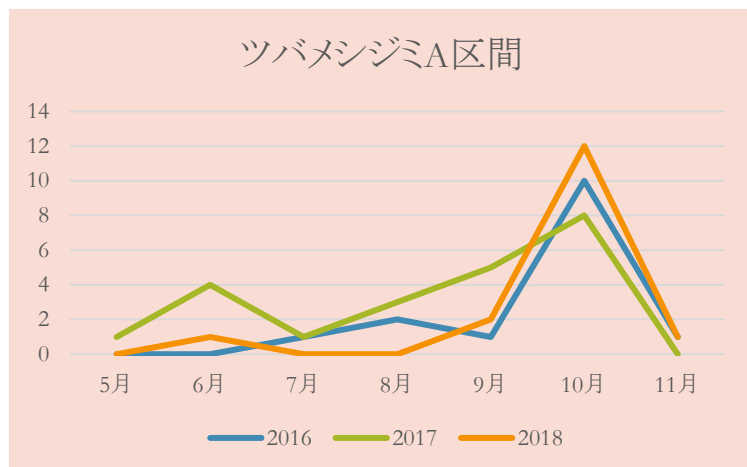
鷹取川と菜の花

鷹取山のツバメシジミ

鷹取山自然観察会の掲示板がある辺りから展望台下の広場までの間には、昆虫の生息場所となるような草地が広がっています。この草地では、毎年、多くのツバメシジミを見ることができます。食草のシロツメクサが混生しているため、ツバメシジミの好

む環境が保たれているものと思われます。ツバメシジミは、国外ではユーラシア大陸北部、国内では南西諸島を除く日本全土に、広く普通に見られる蝶です。雄の表翅は青くてルリシジミに似ていますが、尾状突起があるので、ツバメという名がついています。また、後翅裏面の尾状突起付近(第3~5室)には、鮮やかな赤い斑紋があります。5月から11月に

かけて、草地及びその周辺に咲く様々な花を訪れて蜜を吸う姿が見られます。蝶類調査の結果（グラフ）から、鷹取山の草地では、毎年、9月から10月にかけて数が増えることがわかりました。



晩秋になると、幼虫は褐色に色を変えて地表に降り、落ち葉に糸を吐いて絡めて身を包み、冬を越します。しかし、2017年の晩秋に行われた草刈りは、地面が露出するほど徹底的なものだったために、幼虫の冬越しが心配になりました。2018年の蝶類調査では、6月に1頭のツバメシジミを草地で確認でき、ホッとしました。何とか冬を越した幼虫が蛹となり、羽化して成虫となったのです。



しかし、夏場には姿を見せてくれなかったのが気でしたが、秋には例年通りに多くのツバメシ

ジミを確認することができました。翅を広げても僅か2センチ程度の小さな蝶にも、したたかに生き抜く力が備わっているようです。シロツメクサに産卵する雌を写真に撮ることもできました。

この草地では、蝶では、スイバ、ギシギシを食草とするベニシジミも見ることができます。また、秋になると、北上してきたウラナミシジミが多数見られます。蝶以外にも、例えばバッタの仲間では、クルマバッタ、クルマバッタモドキ、ショウリョウバッタ、ツチイナゴ、ホシササキリなどが見られます。その他にも、カメムシの仲間やハムシの仲間など、多種の昆虫を観察することができます。適度に人手の入った草地は、多くの昆虫の好む生息環境となるようです。千葉県「いすみ環境と文化の里センター」では、昆虫広場として、3通りの草丈（草刈りをしない、50～60

センチ、10センチ）にして、様々な昆虫が観察できるようにしているとのこと。



鷹取山の草地も、様々な昆虫の見られる観察場所となるような管理が行われると嬉しいです。昨年の秋の草刈りは、地面が露出しない程度のものでした。今年も、鷹取山の草地では、多くのツバメシジミを見ることができると思います。（三科清高）

鷹取山自然観察会（ホームページを見て下さい）

HP：鷹取山自然観察会

<http://takatori-yama.eco.coocan.jp/>

連絡先：世話人代表：本多久男 e-mail：takatori_0721@nifty.com